



# クリーンセンター建設に向けて

～クリーンセンターは、皆さんの日常生活に欠くことのできない施設です。～

新たなクリーンセンターの建設は、木津川市にとって、一日も早く解決しなければならない、たいへん重要な緊急の懸案事項です。

4、5月号では、クリーンセンター建設に向けた取り組みの経過と今年度の主な予定事項について、お伝えしました。現在、クリーンセンターに関する都市計画の手続きやUR都市機構からクリーンセンター建設用地を購入するための準備などを進めています。

今月号では、循環型社会を形成する上で、クリーンセンターの役割とごみ減量の必要性について、お伝えします。

## ○循環型社会におけるクリーンセンターの役割

循環型社会を実現するためには、これまでの「大量生産、大量消費、大量破棄」という資源浪費型の社会・生活様式から、3R(リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生利用)を基本とした環境に配慮した取り組みが欠かせません。

また、3Rに取り組んでも、なお残るごみのうちで熱として利用できるものについては、エネルギー回収した上で、最終処分をすることが必要です。

今回、計画のクリーンセンターは、循環型社会におけるエネルギー回収をするための機能を備えた施設として整備し、可燃ごみをエネルギー資源として活用します。

## ○ごみ減量の必要性

循環型社会を実現するためには、クリーンセンター建設の準備を進める一方で、3Rに取り組み、できる限りごみの減量に努めることができます。

平成24年度に木津川市の家庭から排出された燃やすごみと廃プラスチック類(ビニール・プラスチック容器包装以外のプラスチック類)の状況は、次のとおりです。

	木津川市の実績		(参考) 精華町の実績	
	1日あたり	一人1日あたり	1日あたり	一人1日あたり
可燃ごみ	32.4 t / 日	452 g / 人・日	15.3 t / 日	415 g / 人・日
燃やすごみ	31.3 t / 日	436 g / 人・日	15.0 t / 日	407 g / 人・日
廃プラスチック類	1.1 t / 日	16 g / 人・日	0.3 t / 日	8g / 人・日

本市では、昨年度、ごみの減量化を検討するために、家庭から排出された燃やすごみの組成調査を実施しました。その結果、燃やすごみの中に、手付かずの食材が約7%、資源化可能な古紙類が約13%も含まれていました。また、生ごみは、燃やすごみ全体の約43%を占めています。生ごみには水分が多く含まれていることから、ごみに出す前にぎゅっと水切りすることで、ごみの減量にたいへん効果があります。

また、家庭から排出される可燃ごみについて、新たなクリーンセンターで共同して処理をする精華町の実績と比較をすると、木津川市の方が一人あたり約1割、多いことがわかりました。

燃やすごみに含まれているごみの組成や精華町との排出量の比較からも、更にごみの減量が可能です。

ごみの減量は、環境負荷の軽減だけでなく、ごみ処理経費の削減にもつながります。

クリーンセンター建設の準備を進める一方で、市民の皆さんと行政が協働して、ごみに対する関心を高め、ごみの減量に向けた実践活動に取り組むことがたいへん大切です。

クリーンセンター建設に向けて、地元の皆さんをはじめ、  
市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

問合せ クリーンセンター建設推進室 ☎75-1226 Fax72-3900 E-mail : clean-center@city.kizugawa.lg.jp